内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2005年 9月）

◎内海事務総局長から

9月の国連サミットは、貧困の撲滅をうたったミレニアム宣言の実施をレビューする重要な会議でした。しかし、その成果文書53ページの中で、情報通信のことは、ほんの数行しか言及されていませんでした。成果文書はニューヨーク在住の各国代表たちで準備されたものですが、同宣言実施のために、ICTの役割は極めて重要であるとの、情報社会サミットでの議論は、彼らの耳には、全く到達していないのではないかと思わざるを得ません。まだまだやらなければならないことは多いようです。

◎9月の事務総局長の主な動向

9月14～16日　国連首脳会合（UNミレニアム＋5サミット、ニューヨーク）

2000年、国連では、平和と安全、開発と貧困、環境、人権と統治、アフリカの特別なニーズなどの課題に対して2015年までの具体的な目標を設定したUNミレニアム宣言を採択しました。5年後に当たる本年の首脳会合は同宣言のレビュー会合であるとともに、国連創立60周年を記念した会合でもあり、テロ対策や国連安保理の改革なども議論され、報道されているとおり、ほとんどの国の首脳が出席する大きな会合となりました。しかし、期待されたほどの成果ではなかったというのが一般的な評価です。

これまで私が公式訪問で訪れた国々の元首の方々と再会したり、11月のWSISに向けてハイレベルの方々と意見交換する良い機会となりました。

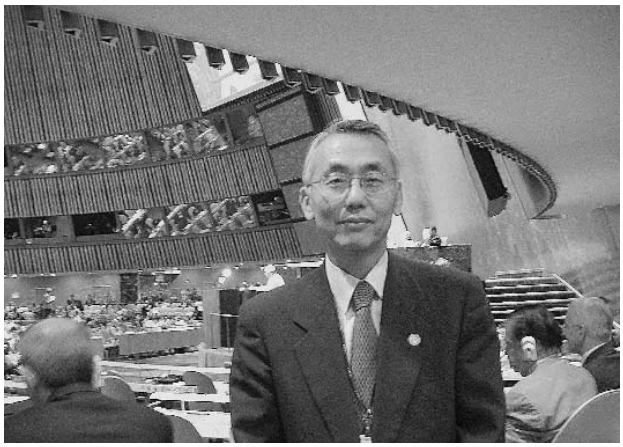
9月19～30日　第3回WSIS準備会合（ジュネーブ）

11月の世界情報社会サミット（WSIS）で採択する文書を最終化するための準備会合を開催しました。これまで2回の準備会合で議論をしてきましたが、多くの論点が採択文書案に含まれていて、また、それら論点に対する各国の関心も高いことから合意に至るまでの調整が難しく、多くの言葉が未合意を表す（　）で囲まれて残っています。特に、インターネットガバナンスや、行動計画の今後の実施メカニズムなどについては、各国の主張に大きな隔たりがあり、WSIS直前まで交渉が続くこととなりました。

・インターネットガバナンス

ドメインネームの割当てやIPアドレスの分配などのインターネットの管理の在り方について議論していますが、現状維持を基本的に主張している国（米国）と、公共政策部分について各国政府や国際機関がより関与できるようにすべきと主張している国との間で厳しい議論が続いています。インターネットガバナンスは、各国で政治的な問題となってきており、WSIS直前まで議論が続くでしょうし、最後にはハイレベルによる決着とならざるを得ない局面が出てくるものと考えています。

・WSIS行動計画の実施メカニズム

2003年WSISで採択された行動計画には2015年までに達成する目標が設定され、その実現のためにインフラストラクチャ、人材開発、セキュリティー、コンテンツなど11項目の行動項目が規定されています。今回のWSISでは、この行動項目の実施メカニズム（実施主体、関係機関間の調整方法など）を議論しています。どの行動項目にしても、政府、民間や市民団体、関係国際機関など多くが実施主体になりますし、それらを調整する会議や組織などを設定すべきだと考えています。しかしながら、新たな負担を懸念してか実施メカニズムを設定する必要性にそもそも疑問を呈している西欧と、開発を具体的に進めるためにも具体的な実施メカニズムを求めている主に途上国とで厳しい議論が続いています。

この実施メカニズムに関する問題は、10月中旬に政府間会合を開催して合意を目指す計画となっています。